



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA、7-16 Sugawara-cho、Kawagoe、Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 19-9

3月号

発行 2018年3月22日

Chartered 1998

会長	吉野 勝三郎	クラブ会長主題	「クラブ20年の歴史を振り返り、EMCにつなげよう！」
副会長	林 京二	国際会長主題	「Let Us Walk in the Light-Together ともに、光の中を歩もう」
	松川 厚子	アジア会長主題	「Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう」
会計	山崎 純子	東日本区理事主題	「Extension Membership & Conservation 広げよう
書記	森下 千恵子		ワイズの仲間」
		関東東部部長主題	「義務を果たして、クラブと関東東部の活性化を図ろう」

3月

いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

ヨハネによる福音書 1章18節

No one has ever seen God, but the one and only Son, who is himself God and is in closest relationship with the Father, has made him known:(John1-18)

2018年1月の統計 (2月24日)

在籍12名 出席者7名 出席率58%

2018 3月例会プログラム

Club Thinking Day につき卓話はありません

日時：3月31日(土) 午後12:00~

★ランチョンミーティングです。お弁当各自持ち込みです。

場所：YMCA 川越センター

- ・開会点鐘 吉野勝三郎会長
- ・ワイズソング、ワイズの信条 一同
- ・2017-2018次期クラブ会長部役員研修報告 森下 千恵子
- ・ココ・ファーム・ワイナリー見学について
- ・川越クラブ20周年について
- ・4月例会について
- ・その他
- ・閉会点鐘 吉野勝三郎会長

2018年2月例会 卓話報告

吉野 勝三郎

卓話者 Benjamin Berger (元埼玉YMCA英語講師)

彼は2年弱、川越センターのビルの3階に居住しながら主として所沢センターで英語講師として働いてきましたが、この度宇都宮に新しい仕事を得たので、埼玉YMCAの仕事から離れることになりました。彼は、山崎純子メンの日本語の生徒でもありました。

この機会に、Benjamin を招いて卓話をしてもらいましたので、その概要を報告いたします。なお、当日は東日本区部長長尾昌男メンの公式クラブ訪問の日でもあり、千葉クラブの青木一芳メンも例会に出席して下さいました。

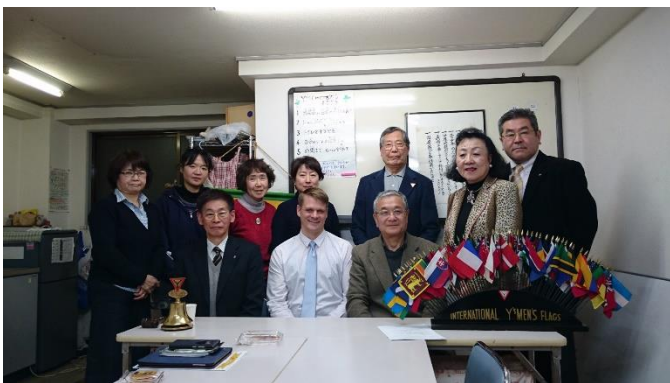
『まずは自己紹介。出身はアメリカ合衆国ウイスコンシン州。同州は、チーズ、ビール、Green Bay Packers (アメリカン・フットボール・チーム)が有名なこと以外は、全くの農業州とのこと。2月には-20℃にもなる。地元の高校卒業後、Idaho, California, New York, Florida, Georgia, Louisiana, Oregon の7州に住んだことがある。長身なのでバスケットが得意で、そのバスケットボールがYMCAで生まれたことを知り、YMCAが好きになったという。ニューオーリンズでは、ハリケーン・カトリーナ(注)により立木が住宅に被害を及ぼしたことから、それを切る作業を2年以上続けた。

Idaho にいた14年前に、友人の車に同乗していて事故に遭い、3時間車に閉じ込められ、本当に九死に一生を得た。大きな手術を受けて、現在ではほぼ通常の生活ができていますが、下肢にはまだ14本もの骨を固定する釘が埋め込まれていて、時期を見て少しずつ抜きたいと思っている。所沢で子ども達が足にぶつかってくると大きな痛みを感じる。幸い、空港のセキュリティーチェックで捕まったことはない。しかし、この怪我のため特別な技能である街中の立木を上から

切り詰めるという仕事は、今はできない。

Oregon で college に行き、バスケットボールで YMCA と接点があった。その後、YMCA のキャンプ場、キャンプ・コリンズで、埼玉 YMCA のダイナミック・サマーで日本の子ども達を引率して来ていた太田聡さんと知り合いになり、埼玉 YMCA での職を得た。キャンプ場では、主としてマウンテンバイクを担当した。このダイナミックキャンプを通して、日本人もアメリカ人も子ども達が異文化に触れることによって大きく変わって行く姿を目撃して、感動した。今後とも、YMCA とは接点を持って行きたい。日本の YMCA は新しいブランディング政策で、新しいヴィジョンを持ち、ポジティブ・ネットという素晴らしい方向性が示されているので、今後に大いに期待したい。

ベンジャミンさんの宇都宮でのますますの活躍を祈念して、川越クラブから送別のお金を贈りました。幸い、宇都宮には、2つのワイズメンズクラブがあるので、栃木 YMCA があるので、今後は、同地で良い出会いがあることを願っています。例会後には、有志と一緒に食事をして、別れを惜しみました。



次期クラブ会長・部役員研修報告

森下 千恵子

3月3日から4日にかけて日本国際青少年センター・東山荘で次期川越クラブの会長ということで研修に行ってきました。

新宿で吉田さんと待ち合わせし、御殿場行き的高速バスに乗りました。高速バスも東山荘も初めて、合宿なんて大学以来です。研修は少し緊張します。ワークショップとかプレゼン等職場での研修が頭に浮かびます。でも事前資料にはそんなこと書いてないし、案外楽しいかもなんて思っているうちに御殿場に着きました。

バスを降りてタクシーに乗るときに転んで右足首を捻挫してしまいました。翌日の早朝ウォークを楽しみにしていた私は真っ先に早朝ウォークに出られるかを心配してしまいました。

開会式は栗本東日本区理事の点鐘により始まり山本剛史郎さんの聖書朗読と開会祈祷がありました。

研修はⅠとⅡ-1、Ⅱ-2の後チェックイン。その後夕食懇談会。さらにその後各部ごとに部長を囲んで22時まで懇談会予定。お酒を嗜まないわたくしとし

ては早く寝たい。それに一体何時お風呂に入るのか悩む。結局部の懇親会を少し早めに切り上げてお風呂に入って寝ることにしました。研修も部懇談会も思ったより楽しかったのですが、明日は早朝ウォーキングです。ロビーで湿布をもらって貼って寝ました。

翌日は楽しみにしていたウォーキングを楽しみました。残念なことに桜色の富士山は見られませんが、多くの鳥の声を聴きレクリエーションを楽しみながら朝食会場に行きました。

研修については各部会からの報告は本当に今更ながら学ぶことが多く、川越クラブのメンバーだからということだけでなく山本剛史郎さんのユース事業方針は声も大きく解りやすく良かったです。

研修全体を振り返り、やはりどのクラブも共通の課題は会員増強だと思いました。

IT 利用による情報伝達研修も IT ツールによる会員増強が主な議題でした。いろんな意見が出ました。少子高齢化の時代に増強ばかりはどうなのか、統廃合を考えたかどうかという意見もありました。高い目標を持ち増強ありきで行動してこそ目標達成につながるという半ば“気合いだ！”的な意見もありました。若い人の入会が会員増強の鍵なのか。また、クラブによってワイズメンズクラブと YMCA の関係もまちまちであることもこの研修で知りました。

個々の事例についてここで挙げればきりがありませんが、全体の方針なんて無理ではないでしょうか。正解はそれぞれのクラブの実情に合わせて考えていくしかないように思えます。研修会で出た様々な意見を参考に今後川越クラブで話し合いたいと思いました。

川越クラブから持っていきました芋菓子 18 袋は好評であったという間に完売でした。



ココ・ファーム・ワイナリーについて

森下 千恵子

有限会社ココ・ファーム・ワイナリーは、栃木県足利市に拠点をおく日本の酒造・食品製造・輸入販売会社です。

その概要は 1950 年代、地元の教師だった川田昇さんが、知的障害がある生徒と一緒に山の斜面を開墾し、ブドウ栽培をはじめたことに始まります。69 年、障害者施設「ここみ学園」ができました。現在は入所を中

心に18歳～90代のおよそ150人がいます。「園生が楽しく働ける場を」と、80年に保護者の出資でワイナリーを設立。約20種、年間20万本のワインを製造。ワイナリーが学園からブドウを購入し、醸造作業を学園に委託しています。ワイナリーのスタッフは30人。

これについては、当初ここみ学園が酒造免許を取得するつもりでしたが、補助金をもらう立場のここみ学園が酒税を納めることになるのは問題があるという指摘があり、ココ・ファーム・ワイナリーが酒造免許を取得したといういきさつがあります。

私がココ・ファームのワインを知るようになったのはここにワイン造りの技術を伝えたブルース・ガットラヴさんのことが書かれた新聞記事でした。初めは半年の約束が障害のある人と対等に接する「人に期待して、チャレンジしてもらおう。一緒に仕事をする。」うちに10年にも及んでしまったという話でした。

障害のある人たちはひたすら美味しいワインを造るためにブドウを選んで収穫し、およそ効率とはかけ離れた仕事を根気強くコツコツと続けています。できる人ができることをそれぞれに役割を持って。

このブドウ畑は開墾以来、除草剤が撒かれたことはありません。化学肥料も使わず発酵も天然の野生酵母や野生乳酸菌が中心。「慈善でなく、おいしいから」同社のワインは2000年、九州沖縄サミットの晩餐会の乾杯に用いられました。また、2008年北海道洞爺湖サミットでの総理夫人主催夕食会でも使用されました。

所在地 足利市田島611

アクセス JR 両毛線足利駅から車20分、徒歩60分
東武伊勢崎線足利駅から車20分、徒歩80分
北関東自動車道足利ICから車10分
あしバスアッシー（生活路線バス）行道線バス停（ココファーム入口）
徒歩7分

営業時間 【ワインショップ】10:00～18:00
【カフェ】11:00～18:00



<ピンクシャツデーを実施しました>

2月28日(水)はピンクシャツデー。

カナダで始まった、いじめのない世界を目指す「ピンクシャツデー」の活動を日本全国のYMCAも行っています。

川越センターでもクラスの中でいじめについて話し合いました。

あなたの優しさと、ほんのみじかい声かけで、子どもの命を救うことができるかもしれない。80秒の映像で、考えてみてください。

▼国内最大のファンドレイジングサイト JAPANGIVINGでは、この動画を一人でも多くの人にみていただくための支援を募っています。

<https://japangiving.jp/campaigns/33784>



<3月4日、今年度最後の野外教育プログラムを開催しました>

月に一度、様々な体験を行うグループ活動。

楽しくボウリングで汗を流した後は、今年度2名の卒業生をお祝いしました。

小学1年生から通っていたメンバーも今では剣道に励む毎日とのことで、中学校へ行っても頑張りたいと思います。

川越センターの放課後等デイサービスの通常プログラムは、3月23日(金)までです。

その後は春休みの特別プログラムで外出していることが多いため、ご来館の際にはお電話にて事前の確認をお願いいたします。

今年度も大変お世話になりました。

川越センター開館状況

<3月>

24日…11時～18時開館

25日、26日…休日